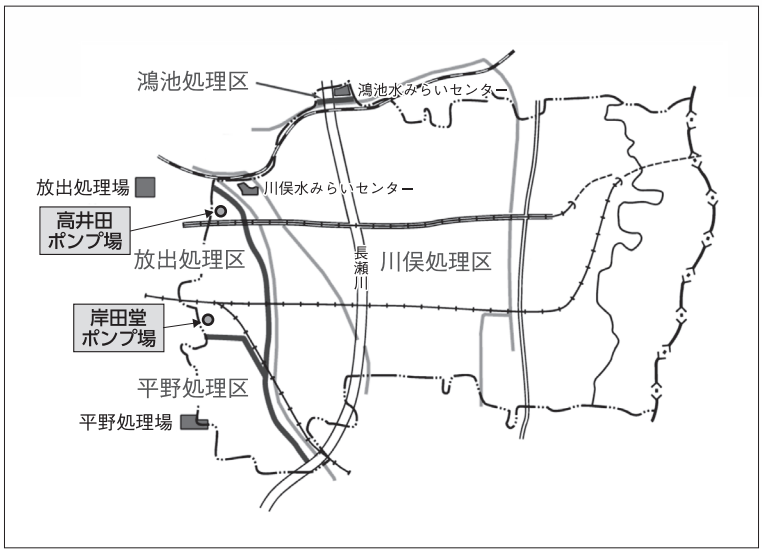
大阪府内の取組み

くらしイキイキ快適な下水道を未来へつなぐ東大阪市の取組み

東大阪市 上下水道局 下水道部 下水道総務室 経営管理課　平原　真一

1 はじめに

東大阪市（以下、本市）は大阪市の東隣、奈良県との県境に位置する面積61.78㎢、人口約48万人の中核市です。ラグビーの聖地である花園ラグビー場を有する「ラグビーのまち」、さまざまな世界屈指の技術が集積する「モノづくりのまち」として知られています。



図－１　処理区域図

2 下水道事業の概要

本市の下水道事業は昭和24年度に基本計画を策定し事業に着手しました。着手から70年以上が経過した現在、普及率は99%を超えており、ほとんどの市民が下水道を使用することができています。排除方式は、市域東部の山間部については分流式、その他大部分の市域は合流式を採用しています。市域西部を流れる長瀬川を概ねの境界として、以東は大阪府流域下水道の処理場にて、以西は大阪市の処理場にて処理を行っています。市の西部に２ヵ所のポンプ場を所有しており、いずれも大阪市の処理場へ送水する役目を担っています（図－１）。

また、市域の大半は雨水が自然に河川へ流れ込まない内水域であり、治水上厳しい地形条件であるため、過去より積極的に浸水対策を推進してき

ました。整備された対策施設は大きな効果を発揮しており、安全で快適な市民生活の提供および産業の発展に貢献してきました。

汚水および雨水の排除にかかる施設整備が進んだ一方で、維持管理している管路施設は1,300kmを超えており、その５分の１以上が布設から50年以上経過しています。計画的な改築を実施しているものの、施設の老朽化が加速度的に進んでいます。ポンプ場についてもそれぞれ供用開始から50年以上経過している状況です。

3 東大阪市下水道事業経営戦略

本市の下水道事業が建設整備から維持管理・更新の時代へと移行していくなか、使用料収入は減少してきており、将来にわたり必要な下水道サービスを提供し続けるためには経営基盤強化と財政マネジメントの向上が不可欠となりました。そこで事業の現状と将来の見直しを踏まえた中長期的な経営の基本計画である経営戦略を令和３年３月に策定しました。

策定からの２～３年間で金利や物価が上昇する等、経営環境に変化がありました。経営戦略は、投資・財政計画の条件に大きな変化がある場合等には、投資・財政計画を見直し、その内容を経営戦略に反映させる方針としており、各年度決算の各指標から評価・分析し、投資・財政計画の見直しを中心とした経営戦略の改定を令和６年３月に行いました（図－２）。

図－２　東大阪市下水道事業経営戦略

経営戦略における収支計画については、各年度の決算時および予算編成時において随時点検を行っています。物価・金利が上昇しているなか、特別重点調査の結果による施設の修繕および改築にかかる費用のさらなる増加等を反映させるため、収支計画の見直し作業を行っているところです。

4 大規模雨水処理施設整備事業

本市の事業着手当初に整備された長瀬川以西の地区（以下、西部地区）は、ほかの地区に比べ雨水整備水準が低くなっていたため、平成４年度に計画の見直しを行い事業に着手し、現在は大規模雨水処理施設整備事業として整備を進めています。

令和５年度より進めてきた岸田堂ポンプ場の増強工事が今年８月に完了しました。残る新大蓮北放流幹線築造工事（令和７～11年度）が完成すると、西部地区の浸水対策にかかる根幹施設の整備が完了します。また、同地区の既存施設の機能確保にかかる改築工事についてもあわせて実施しています。

5 クスノキの根プロジェクト

市民に下水道の魅力や可能性に気づいていただき、下水道の役割や必要性について理解を得ることを目的として、東大阪市下水道部広報戦略チーム「クスノキの根プロジェクト」を令和６年８月に立ち上げました（図－３、写真－１）。

プロジェクトは主に若手～中堅職員で組織され、メンバー各自が自由にアイデアを出し合いながらPR動画やグッズを作成するなど、広報活動の中心を担っています。現在、市の下水道をPRするための新たな配布物を鋭意作成中です。